

文化財を活用した今後の取り組みについて

参考資料

1. 趣旨

本市では、市内にある歴史文化遺産をまちづくりに活用するため、平成27年3月に「歴史文化遺産の保存と活用のための整備構想」を策定し、市民が身近に歴史に親しみ、郷土への愛着を育んでもらうことを目指してきました。

そうした中、平成31年の「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行を受け、今年度の機構改革において、文化財行政の事務を教育委員会から移管し、市長部局が担当することとなりました。

そこで、市の観光施策等を視野に入れ、文化財を活用した今後の取り組みについて、お示しするものです。

2. 現状と課題

本市では、これまで教育委員会が文化財行政を所管し、①指定・登録、②保存と活用事業、③埋蔵文化財の保護、④啓発普及事業を行い、埋蔵文化財をはじめとし、各家に伝わる古文書、農具や生活用具等の民具について、保護・保存に重点を置いた取り組みを進めてきました。

しかしながら近年、枚方宿等をはじめとする旧家に伝わる掛軸等の美術工芸品や古文書の散逸が懸念され、貴重な文化財を把握するための調査や、保管・公開ができる機能が求められています。また、観光をはじめとする市のさまざまな施策と連携し、守り伝える地域の資産として更なる活用を図ることが求められている状況です。

3. 今後の方向性

文化財保護法改正の趣旨を踏まえ、保全に配慮しながら、「理解促進」「活用」に力を注いでいきます。そのため、文化財の活用の具体化を図り、国が推奨する「文化財保存活用地域計画」の策定について、専門的な知見を集めるなど研究を進めます。

さらに、市長部局に移管したメリットを活かし、まちづくりなど市の施策と一体的な取り組みを行うに当たり、各関係部署と連携を図りながら計画的に進めていきます。

4. 内容

(1) 歴史文化遺産のネットワーク化

市内に点在する歴史文化遺産について、地域性や時代等によるまとまりを踏まえ、3つの「歴史回廊」を設定し文化財の活用を進めます。

① 京街道歴史回廊 (近世)

豊臣秀吉が築いた文禄堤を元に整備された京街道は、枚方宿とともに欠かせない歴史文化遺産です。枚方宿には伝統的な外観を持つ町家が点在し、宿の歴史を伝える拠点施設

として枚方宿鍵屋資料館があります。また、京街道とその周辺には光善寺・片埜神社・楠葉台場跡ほか数々の歴史文化遺産があります。

また、船橋には二ノ宮神社があり、^{しかん}祠官をつとめた井上^{とうてい}桐亭・^{きんきょう}金橋や文人医師三浦^{らんぱん}蘭阪が奉納した和歌も多数残されています。



枚方宿鍵屋資料館



史跡楠葉台場跡

【今後の取り組み】

- ・枚方宿鍵屋資料館において、江戸時代の宿の機能や町屋の暮らし、淀川資料館と連携した淀川舟運の紹介、伝統的な講座、子ども向け事業、新たな視点でのイベントなどの実施。
- ・旧山口三治郎家住宅の効果的な活用の検討。
- ・旧田中家鋳物民俗資料館は、京街道に近接した枚方上之町に所在した鋳物師・田中家の工場等を藤阪天神町に移築復原したものであることを積極的に周知。
- ・枚方田中邸のむく、光善寺のさいかちなど、天然記念物保護への理解促進。
- ・楠葉台場跡について、市民の活用促進。

②東高野街道歴史回廊（中世）

京都と高野山を結ぶ東高野街道は、平安時代末期から高野山参詣が盛んになり、多くの人が行き交いました。本市域では道筋の大部分は現在の幹線道路と重なっていますが、沿道周辺には、弘法大師にまつわる伝承が残っており、出屋敷地区と茄子作（本尊掛松付近）には旧道の面影が残されています。

また、街道に接する東部地域は里山の自然と古くからの社寺があり、山城（京都府）や大和（奈良県）との文化の結びつきが感じられる地域です。



尊延寺木造降三世軍荼利明王立像 他



巖島神社

【今後の取り組み】

- ・東部地域の自然を満喫しながら、国の重要文化財である尊延寺の^{もくぞうごうざんぜぐんだり}木造降三世軍荼利^{みょうおうりゅうぞう}明王立像（2軀）、巖島神社末社春日神社本殿、雨乞にまつわる文化財のある三

之宮神社などを多くの方に知っていただくため、スポーツ、健康の観点もふまえた「文化財巡りウォーキング」等の開催。農業や里山振興策と連携した試行イベントの検討。

- ・中世の道である東高野街道が所在する八幡市、交野市と連携したPR発信を強化するため、淀川舟運整備推進協議会・天野川ツーリズム協議会を活用した試行イベントの実施。

② 交野ヶ原歴史回廊（古代）

交野ヶ原は男山丘陵と枚方丘陵に挟まれた交野台地を指し、その中心は楠葉から禁野・中宮あたりです。古墳時代には禁野車塚古墳・牧野車塚古墳といった前方後円墳が築かれ、古代寺院では九頭神麿寺、百濟寺跡、そして、百濟寺や百濟王氏との関連が深い禁野本町遺跡、『伊勢物語』に登場した渚院跡や天野川など、古代の歴史文化遺産が点在しています。



特別史跡百濟寺跡



透過パネル説明板



【今後の取り組み】

- ・百濟寺跡について、古代寺院をイメージした透過パネル説明板の設置。関連する由緒ある自治体との交流事業（友好交流資料館提携、物産紹介など）の検討。
- ・市内の大学と連携した、ICTを活用したPR。

（2）文化財の積極的な公開

文化財活用の第一歩として、市民や来訪者など広く開放・公開する観点から取り組みを進めます。



出土遺物の展示(本庁舎本館1階)

①民俗文化財

- ・収集している民具について整理やデータベース化を進め、効率的に保管するとともに、資料館や学校教育の場での活用促進。
- ・ICTを活用した取り組みとして、小中学生に配布されているタブレット活用の検討。
- ・旧田中家鋳物民俗資料館と国立民族学博物館が連携する教育パック「地域文化の宝箱」事業など、関係機関と連携したプログラム作りの推進。

②埋蔵文化財

- ・出土遺物を広く市民に公開するため、生涯学習施設や遺跡近くの小中学校での展示、セミナーの開催、ICTを活用した子どもたちへの啓発。
- ・楠葉牧で土器生産された「河内鍋」の積極的な公開や再現など、発掘調査や啓発事業の充実。

③歴史文化遺産としての記録資料

- ・市民から寄贈・寄託された資料について、データベース化を進め、古文書や絵図、写真等の展示や市ホームページでの公開。
- ・郷土資料のレファレンス、わかりやすいFAQの作成、歴史的公文書の取り扱いについての関係機関との連携。

④広く市民と文化財のマッチング

- ・大阪府が実施する「東京2020パラリンピック聖火フェスティバル採火式」の地域会場として百済寺跡を活用し、障害者、留学生、子どもから高齢者まで広く周知。
- ・史跡管理等に障害者が参画する機会を通して、新たに地域との交流創出を検討。
- ・市内高校生の歴史学習やクラブ活動に協力し、若者が文化財に興味を持ち、人間形成に役立つような取り組み。

⑤保管・展示

- ・保管スペースの確保が困難になってきており、出土品等の適正な管理のあり方について、先行事例の研究や大阪府等との協議の実施。
- ・市生涯学習施設等でのケース展示やセミナーの実施により、身近に文化財に触れる機会の拡大。



出土遺物保管場所(伊加賀スポーツセンター内)



禁野本町遺跡(発掘調査時)

(3) アフターコロナと文化財の活用

新型コロナウイルス感染防止を進めるため、「新しい生活様式」による啓発普及や情報発信の手法が求められています。



旧田中家鋳物民俗資料館

【今後の取り組み】

- ・枚方宿鍵屋資料館において、本市が連携協定を結ぶ、国立研究法人情報通信機構（N I C T）の協力による非接触型の展示案内の実証実験を踏まえ、新しい生活様式による資料館のあり方について検討。
- ・旧田中家鋳物民俗資料館において、国内で唯一残る鋳物工場について、鋳造制作工程等を動画で公開。

（４）多角的な視点による文化財の活用や風習・年中行事の継承

枚方市は淀川左岸に位置し、地形は淀川左岸低地、台地・丘陵、東部山地と大きく3つに分かれています。京都府八幡市や寝屋川市、交野市と隣接し、淀川の対岸には高槻市・島本町も在ります。このような地勢を踏まえて、地理・地質学、国際関係学などの多角的に枚方を考える視点が必要です。

また、生活様式の変化に伴い風習や年中行事の多くは消滅しましたが、今なお残る伝統的な文化や暮らしについて、調査・記録し、次世代へ継承することが求められています。

【今後の取り組み】

- ・枚方市域を含む旧河内国の成り立ちや、淀川水系と河内湾・湖に関する講座の実施。
- ・淀川の氾濫史など、治水や防災史の解明に考古学的成果の活用。
- ・年中行事や人生儀礼、食生活など、郷土に古くから伝わる風習を調査し、伝える方策の検討。

（５）枚方市文化財保存活用基金の活用

長い年月を経て守り継がれてきた文化財は、未来に良い状態で伝えていく必要があります。

○ 基金の額の推移

(令和2年9月末現在)

| 年度 | 積立額 | 残高 | |
|--------|-------------|-------------|---|
| 平成30年度 | 30,000,000円 | 30,000,000円 | (公財)枚方市文化財研究調査会の解散に伴う精算金 |
| 令和元年度 | 1,053,298円 | 31,053,298円 | 1,050,000円(ふるさと納税による指定寄附)3,298円(基金積立利子) |

| | | | |
|-----------|----------|-------------|---------------------------------------|
| 令和2年度 | 962,199円 | 32,015,497円 | 960,000円（ふるさと納税による指定寄附）2,199円（基金積立利子） |
| ※支出は現在未執行 | | | |

文化財を地震・火災等の災害から守り保存・修理する事業、文化財の魅力を分かりやすく発信する事業、文化財愛護の心を育てる事業に活用していきます。

【今後の取り組み】

- ・枚方の未来を担う子どもたちが「歴史が面白い、もっと学びたい」と感じてもらえるように、新しい技術・発想を取り入れた事業。
- ・子どもたちや保護者が市内の様々な文化財を知り、親しみ、郷土の歴史に誇りと愛着を持つように、教職員等の意見を聴きながら、文房具など日常使用するものへの活用・配布を検討。
- ・周知の埋蔵文化財包蔵地以外での可能性調査や緊急を要する発掘の実施、自然災害等で破損した指定文化財以外の費用助成。